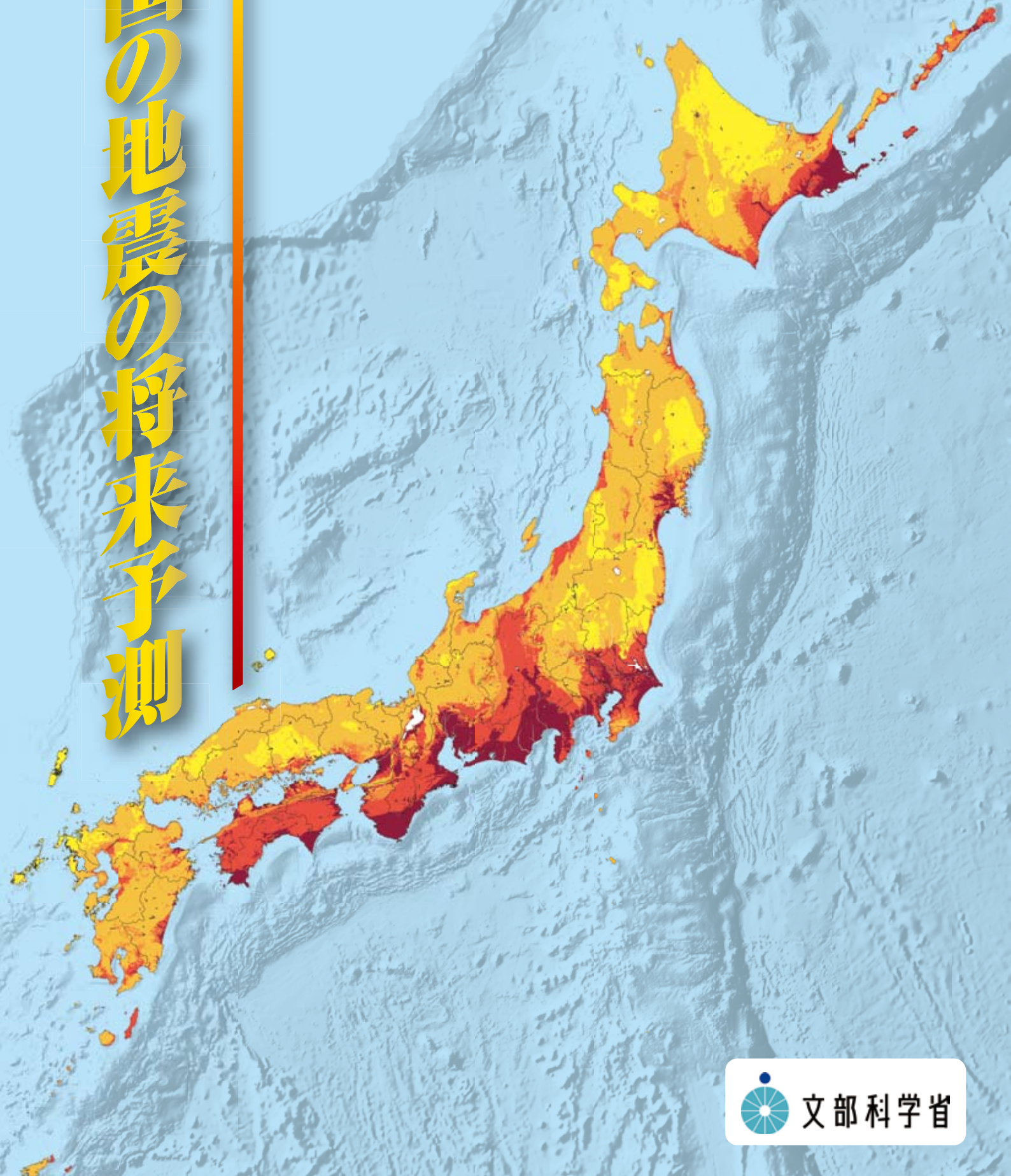


わが国の地震の将来予測

# 全国地震動予測地図

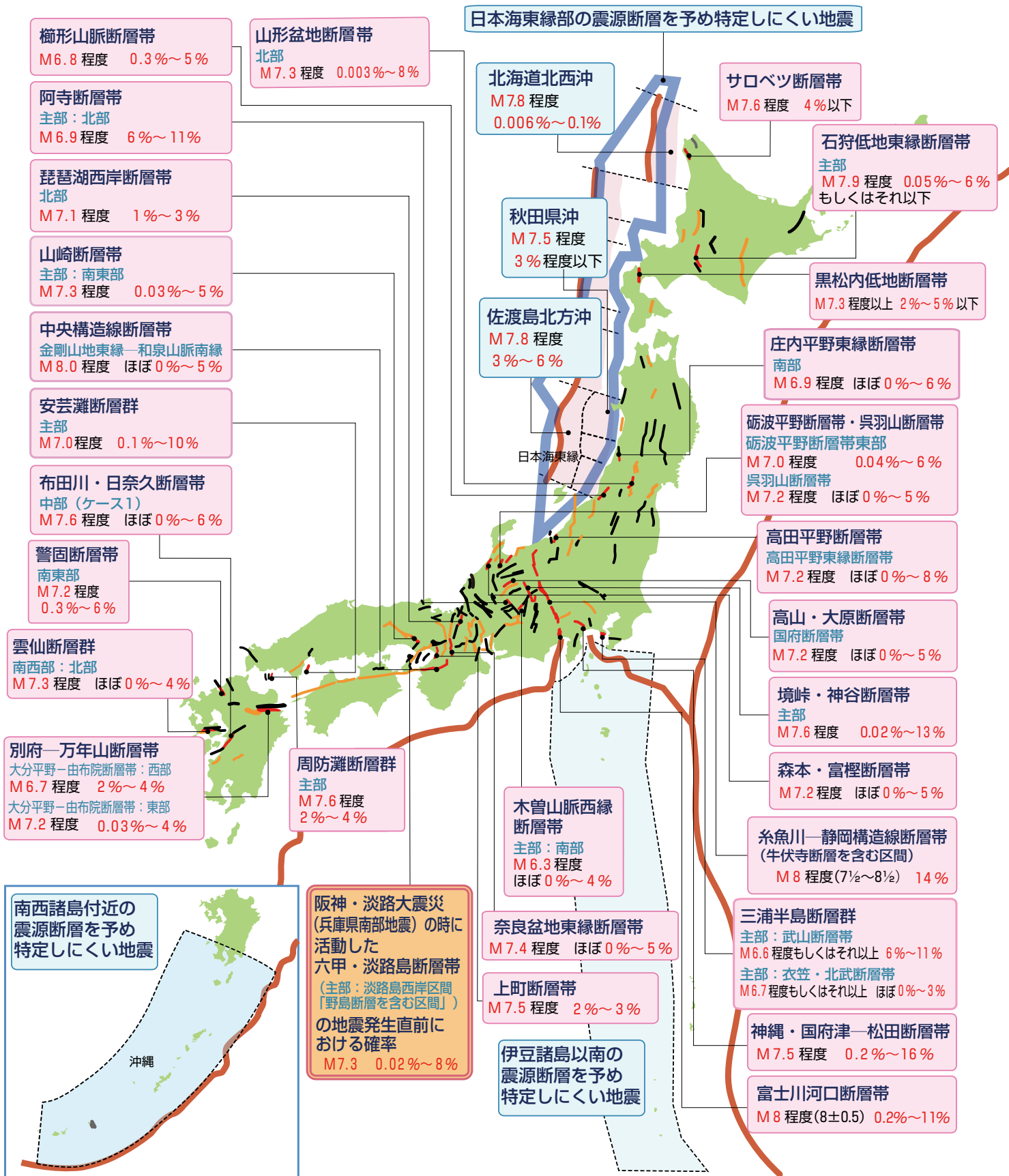
平成22年（2010年）



文部科学省

# 主要活断層帯の評価結果

活断層など陸域と海域の浅い地震（再来間隔が数千年オーダーの地震と、震源断層をあらかじめ特定しにくい地震のうち、陸域と周辺海域の地震：カテゴリⅢ）の長期評価結果の概要を示します。（2010年1月1日現在）



**凡例：**

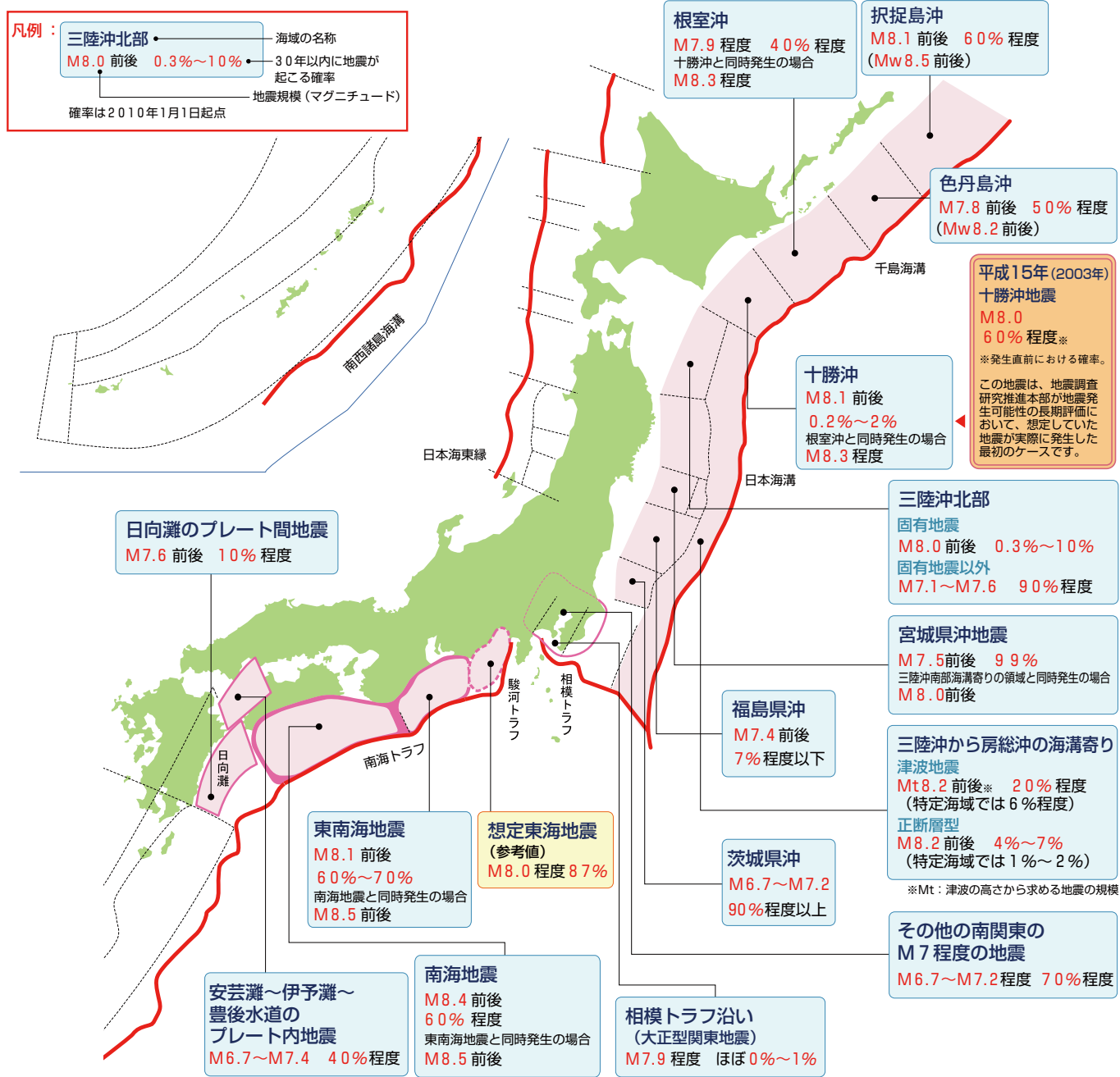
- 高い（今後30年以内の発生確率が3%以上）
- やや高い（今後30年以内の発生確率が0.1~3%）
- 表記なし（今後30年以内の発生確率が0.1%未満または確率が不明）
- 今後評価が行われる断層帯（群）
- 断層帯の名称
- 今後30年以内に地震が起こる確率 ほぼ0%とは0.001%未満をいう
- 地震規模（マグニチュード）
- 確率は2010年1月1日起点

神縄・国府津—松田断層帯 M7.5程度 0.2%~16%

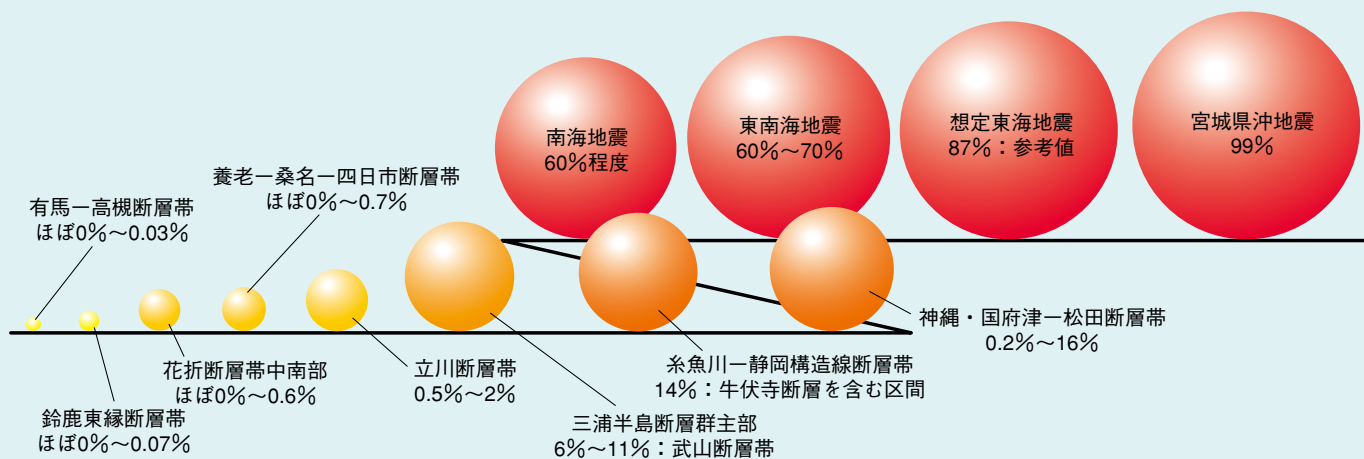


# 海溝型地震の評価結果

海溝型地震のうち、震源断層を特定できる地震（震源断層をあらかじめ特定でき、再来間隔が数百年オーダーの地震：カテゴリⅠ）、震源断層を特定しにくい地震（震源断層をあらかじめ特定しにくい地震のうち、プレート間地震とプレート内地震：カテゴリⅡ）の長期評価結果の概要を示します。  
 (2010年1月1日現在)



## 今後30年以内の地震の発生確率を比較すると……

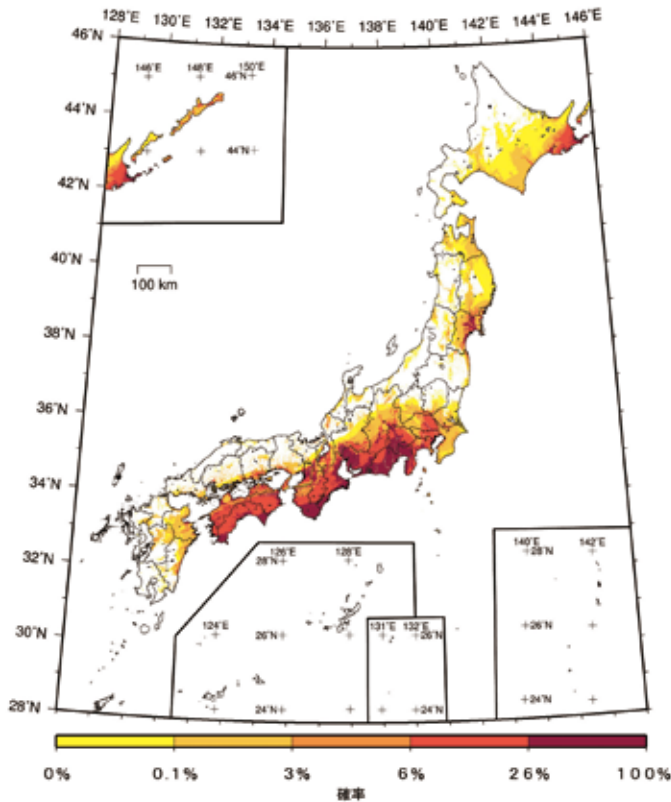


# 1 確率論的地震動予測地図

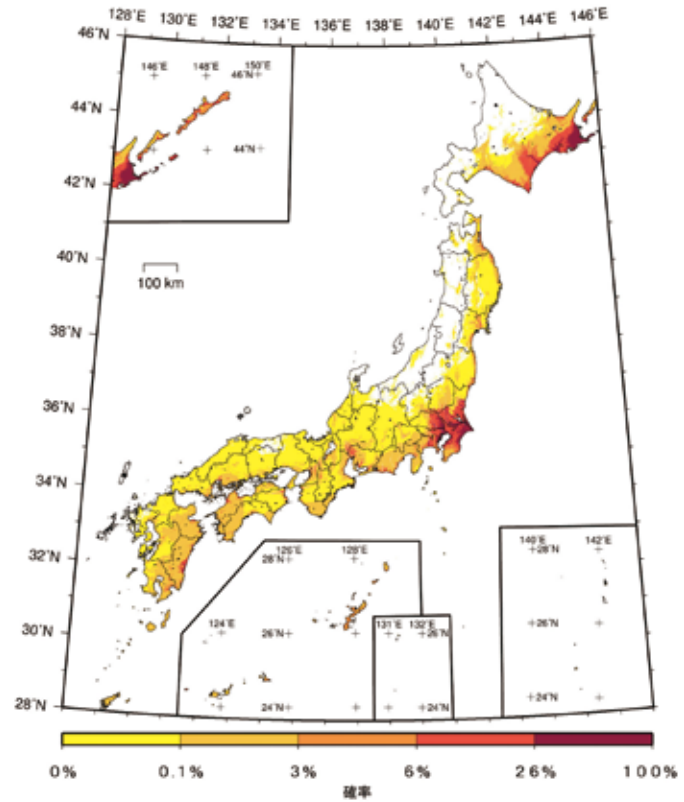
基準日:2010年1月1日

—今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率—

## A カテゴリー I 主な海溝型地震



## B カテゴリー II カテゴリー I 以外の海溝型地震



## A + B + C すべての地震を考慮した平均ケース

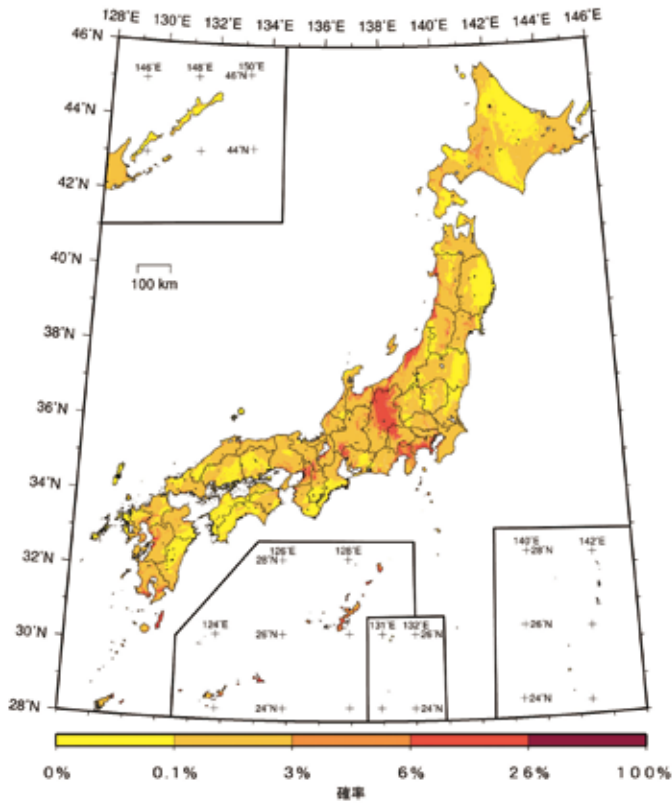
「全国地震動予測地図」は、地震ハザードマップの一種です。これまでの地震調査研究推進本部の成果を地図にまとめたもので、「1 確率論的地震動予測地図」と「2 震源断層を特定した地震動予測地図」の二種類があります。

日本は世界有数の地震国であり、全国どこであっても地震に対する備えが必要です。この地図が国民の地震防災への意識向上や、効果的な防災対策を進めるための基礎資料として活用されることを期待しています。

「確率論的地震動予測地図」は、日本とその周辺で発生する地震の位置・規模・確率に基づいて、各地点がどの程度の確率で、地震によりどの程度揺れるかを色分けして示すものです。右に示す「確率論的地震動予測地図」は、カテゴリー I、II、IIIのすべての地震を考慮した平均的なもので、「その場所が今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」を示しています。

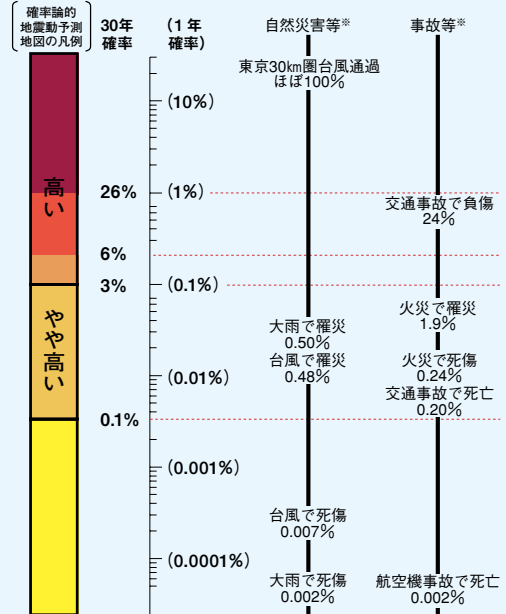


## C カテゴリーⅢ 陸域や沿岸域の活断層などで発生する地震

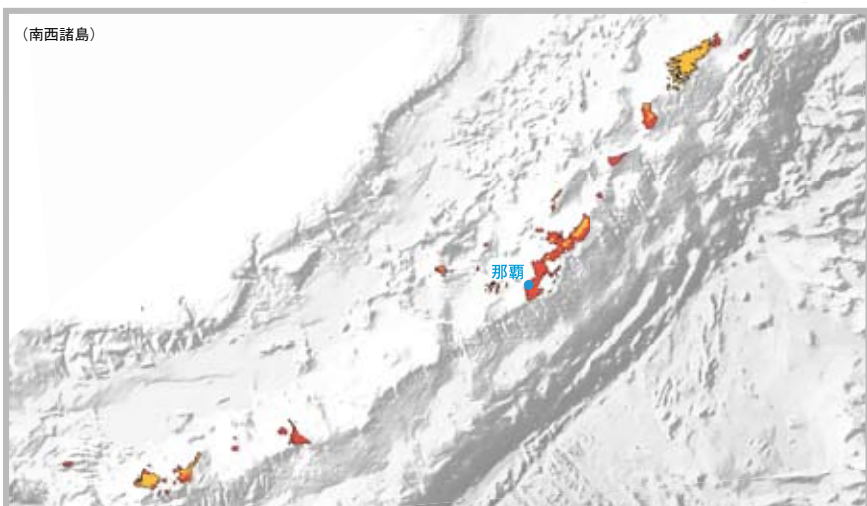


### 参考図 日本における自然災害・事故の30年発生確率の比較

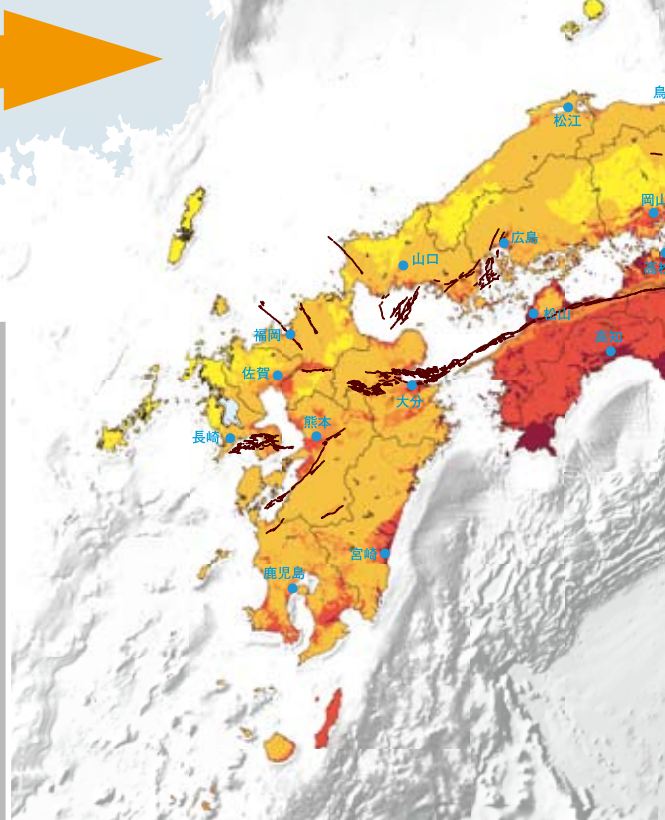
この参考図は、「今後30年以内に数%」という値が日常生活において無視できない数値であることを理解するための参考情報です。確率論的地震動予測地図に示されている地震動の「超過確率」（ある値を超える揺れに見舞われる確率）は「ハザード」の評価結果であり、必ずしもここで例示した事象の「発生確率」や「リスク」と同列に比較できるものではありませんが、数値の重みを受け止める上での参考としてご覧ください。



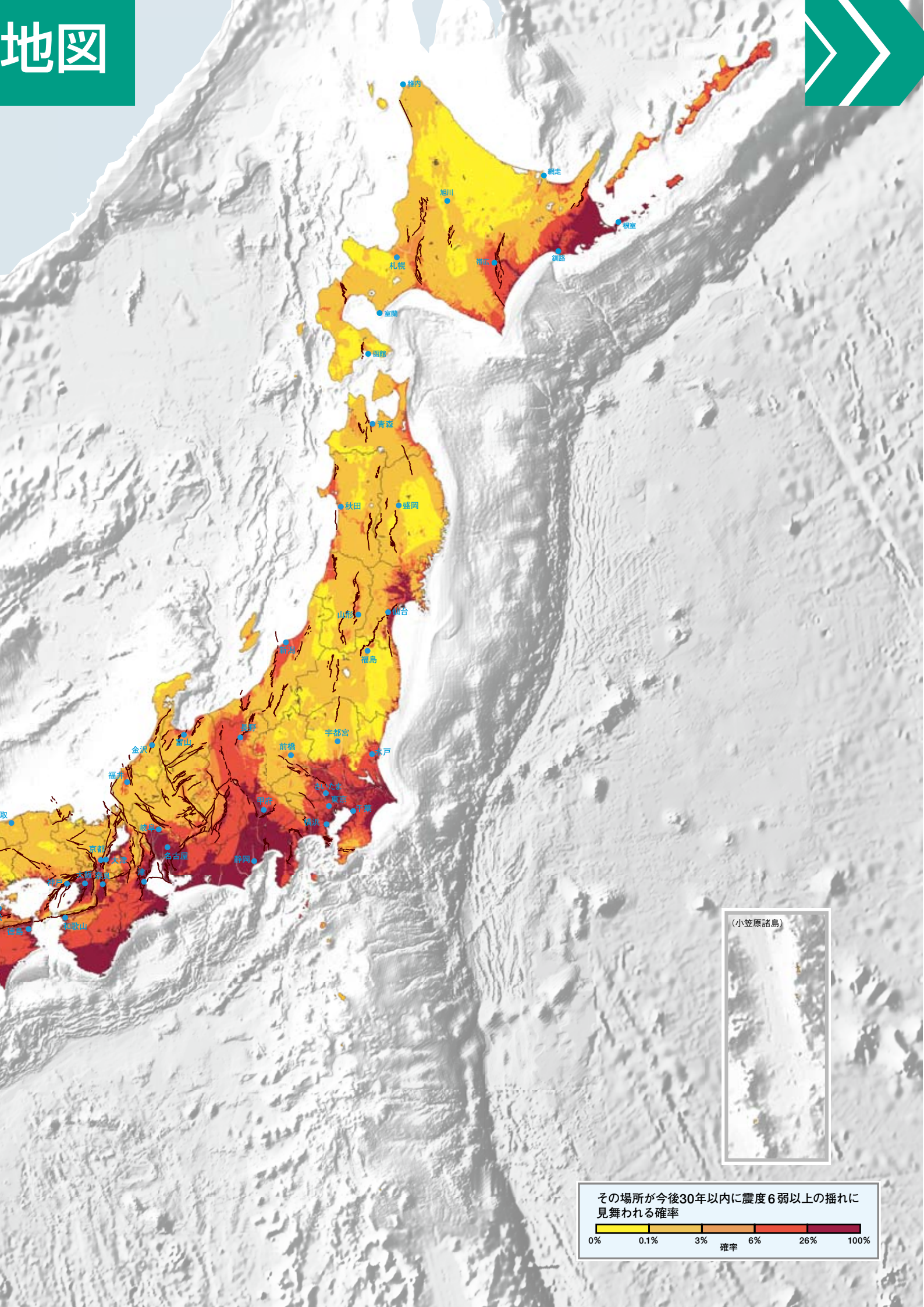
\*日本の自然災害・事故等の発生確率の例は、「全国を概観した地震動予測地図」報告書（2006.9.25）より抜粋。



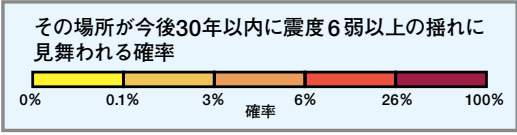
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（空間データ基盤）及び基盤地図情報を使用して作成。（承認番号 平21業使、第683号）  
この地図の海底地形は、海上保安庁日本海洋データセンターの水深データと米国国立地球物理データセンターのETOPO1を使用して作成。







(小笠原諸島)



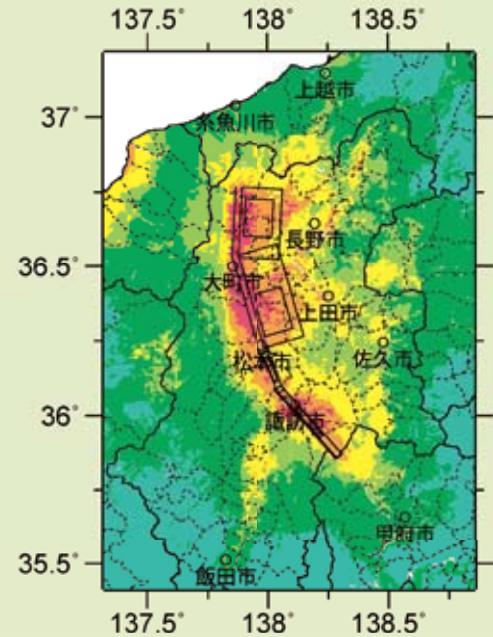
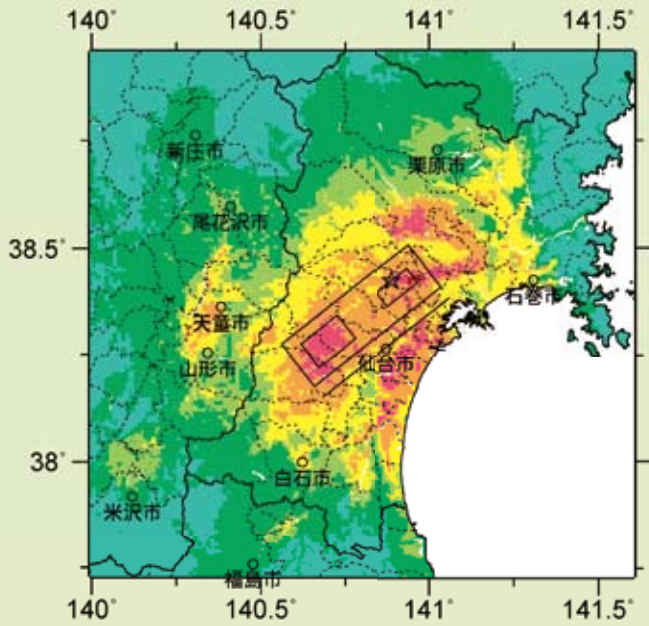


## 2 震源断層を特定した地震動予測地図

「震源断層を特定した地震動予測地図」とは、ある特定の地震（ある断層の特定のすべり）が発生した場合に各地点がどのように揺れるのかを計算してその分布を地図に示したものです。

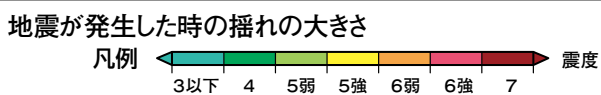
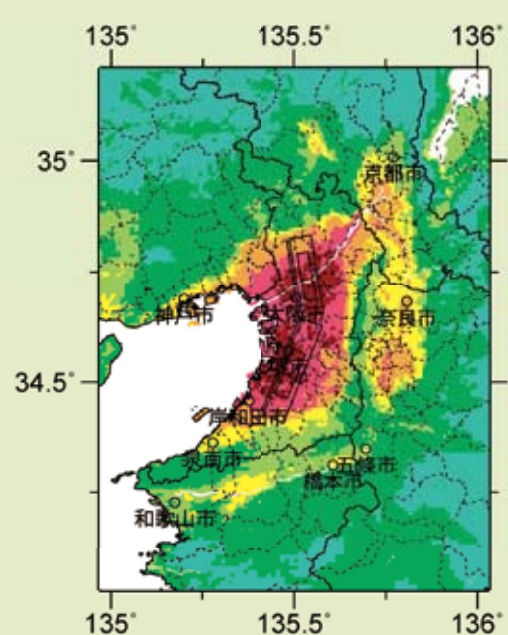
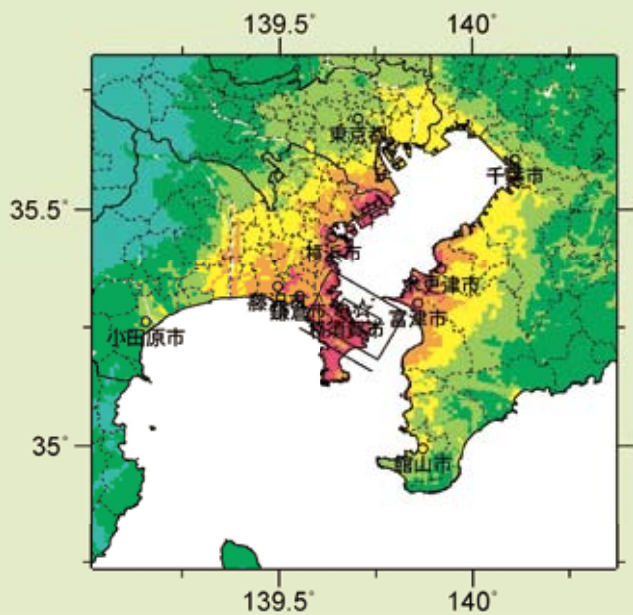
**東北地方：長町-利府線断層帯**  
M7.0~M7.5程度 1%以下\*

**中部地方：糸魚川-静岡構造線断層帯(牛伏寺断層を含む区間)**  
M8程度 14%\*



**関東地方：三浦半島断層群(主部：武山断層帯)**  
M6.6程度もしくはそれ以上 6%~11%\*

**近畿地方：上町断層帯**  
M7.5程度 2%~3%\*



\*各断層帯で地震が発生した時に想定される地震の規模(M)と、30年以内の発生確率を示しています。

## 平成7年兵庫県南部地震



阪神高速神戸線



神戸市内

防災&情報研究所撮影

## 平成19年能登半島地震



輪島市内

輪島市撮影

## 平成16年新潟県中越地震



旧川口町役場付近 新潟県西部広域消防事務組合消防本部撮影



旧山古志村柱谷 上越地域消防事務組合消防本部撮影

震度6強以上の  
揺れによる被害

## 平成19年新潟県中越沖地震



柏崎市内



柏崎市「NET・陽だまり」撮影

### 地震が起きたら

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- あわてた行動、けがのもと

### あわてず、まず身の安全を!!

- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- 近づくな、門や塀、自動販売機やビルのそば
- 海岸でぐらっときたら高台へ

### 緊急地震速報を見聞きしたら

出典：気象庁

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!

## 全国地震動予測地図をより詳しく知るには!

(独)防災科学技術研究所 地震ハザードステーション J-SHIS

<http://www.j-shis.bosai.go.jp/> 検索ワード J-SHIS 検索



地震ハザードステーションのホームページ

地震調査研究推進本部

<http://www.jishin.go.jp/> 検索ワード 地震調査 検索



地震調査研究推進本部のホームページ

\*最新の情報はホームページをご参照ください。

## 文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 (地震調査研究推進本部事務局)

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

電話 03-5253-4111 (代表) E-mail:jishin@mext.go.jp

※この冊子は、文部科学省の委託により、(株)防災&情報研究所が作成しました。